



文責 校長 山本智文

野外活動（民泊）に行ってきました

特集

9月20日（水）～22日（金）に北広島町へ、蒲刈小と豊小児童の5・6年生（それぞれ14名・10名）合計24名で2泊3日の野外活動（民泊）に行ってきました。2日目が、終日の雨となり残念に思いましたが、子どもたちは予定通りスケジュールをこなすことができました。悪天候の中ではありましたが、子どもたちは1分1秒を無駄にすることなく、果敢にチャレンジしていきました。この3日間で民泊家庭の皆さんや仲間との思い出をたくさんたくさんつくることができました。バスに酔う児童もおらず、よく食べてよく寝て、マナー良く過ごすことができました。多くの人に支えられて安心して行けたことに感謝しながら、3日間を思いっきり楽しんだ子どもたちでした。ここで、子どもたちの過ごした3日間について紹介します。

1日目「対面式」「田舎暮らし体験」



11時過ぎに北広島町豊平にある「どんぐり村」に着いた子どもたちは、しばし蒲刈とは違った自然の中でゆったりとした時間を過ごしました。広々とした広場を駆け回る子どもたちでした。その後、「北広島町役場豊平支所」に移動し、昼食をとった後、13時からいよいよお世話になる民泊家庭の皆様との出会いの場「対面式」に臨みました。最初は緊張気味だった子どもたちも民泊家庭のみなさんの優しさあふれる出迎えに一気に引き込まれていきました。子どもたちは、お世話になる民泊家庭の方々にまずは自己紹介をし、リラックスした中で「本日のメニュー」を確認し合っていました。その後、それぞれの民泊家庭の車に乗車しお世話になる家を目指すことになりました。「行ってらっしゃーい！」「行ってきまーす！」それぞれの家庭に到着した子どもたちは、初日のメニューに挑戦。右の写真「民泊家庭①」は、おうちの方からバームクーヘンの生地づくりを教えてもらった子どもたちが「焼き」に挑戦している場面です。竹をくるくると回しながら生地を塗り重ねていき、層を厚くしていきます。「美味しくなーれ、美味しくなーれ」という心の声が聞こえてきそうです。写真には映っていませんが、子どもたちの目の前には黄金色に輝く稲田が広がっていました。



民泊家庭①

続いては「民泊家庭②」の写真です。この写真は、みんなで「玉ねぎの種」をプレートに植え付けている場面です。おじいさんが子どもたちの種の植え付けを優しく見守っておられる場面がとても印象に残りました。作業の途中でアイスクリームをいただきました。ビニルハウスの中は蒸し暑かったですが、アイスクリームの冷たさが体に染み入り、とてもさわやかな気分になりました。稲田を優雅に飛び交う赤とんぼが夕日に映えて美しかったなあ。



民泊家庭②

「民泊家庭③」の写真です。この場面は、お世話になる家庭の農園で「さつまいもの収穫」をしている様子です。とても紅く色鮮やかなさつまいもをたくさん収穫することができました。とても大きなさつまいもがお目見えした時の子どもたちの発する「うおー、すげー！」が山間の谷間に響いていました。おじいさんの「今晚は、イモご飯にするか！今、母さんがなすの田楽を作りようるけんのお。」の一言。お腹がグーっと鳴る瞬間です。「腹減ったー！」



民泊家庭③

最後の「民泊家庭④」です。洋風のお家の台所で、子どもたちはピーマンの肉詰めにも挑戦していました。奥様のお母さまが関西から来られていて、子どもたちと一緒に料理を楽しんでおられました。デザート用の「フルーツポンチ作り」にも挑戦し、とても和やかな雰囲気の中、素敵な時間が流れていきました。子どもたちの無心で料理作りにチャレンジする光景がとても印象に残りました。



民泊家庭④

この後、子どもたちはそれぞれの家庭でどのような時間を過ごしたのでしょうか？真実は、子どもたちにしか分かりません...。(^^) / < おやすみー。

2日目「バギーアドベンチャー」「ZIPライン」「林業体験」「神楽」



バギーアドベンチャー



ZIPライン



林業体験

いよいよ2日目を迎えました。しかしながら、朝からの雨、雨...。3本の体験活動ができるのでしょうか...。不安に思いながらも、子どもたちを乗せたバスは「ユートピアサイオト」を目指し出発しました。到着後、子どもたちは事務所の中で入所式を行いました。その時も外は雨...。担当者の方々との打ち合わせの結果、何と「予定通り実行しよう！」ということになりました。蒲刈小学校の子どもたちは、まずは「バギーアドベンチャー」にチャレンジすることに。早速、子どもたちは、割り当てられたバギーにまたがり、指導者の方からの指導を受け「いざ運転開始」。子どもたちが思うようにバギーを操るのにそんなに時間は必要ありませんでした。水を得た魚のよう

にバギーを運転する子どもたちを見て、指導者の方の口から思わず「この子達はセンスが良いですよ。普通、こんなに短時間で乗りこなす子どもはいません。」と、お褒めの言葉。その間、雨は降ったりやんだり…。しかし、夢中になってバギーを操っている子どもたちの視界には雨なんて映っていなかったことでしょう。「バギー、最高！ \(\textcircled{\vee}\)ノ●●最高!!!」

それでも、雨は容赦なく降り続きます…。「この雨ですが、ZIPラインどうしましょう?」「山の中なので、木が雨をさえぎってくれてそんなに影響はないので大丈夫ですよ!」とインストラクターの女性からの一言。「よしっ、やりましょう!」ということで、子どもたちは装具を身に付け、短時間の指導を受けた後、いざ、現場へ。生い茂る木々の中を抜けること約10分。ようやく、スタートラインに到着しました。さあ、チャレンジ開始。子どもたちは順々に勢いよく飛び出していきます。滑車の「ジー」という音だけが谷間に響いていきます。未知の体験とでも申しましょうか、何とも言えない体感を覚えました。高所恐怖症の私でしたが、爽快感からくる快感に思わず「ヒーハァー!」。たぶん、子どもたちも同じ爽快感を感じたことでしょう。気が付くと、雨はほとんど降っていませんでした…。

子どもたちは、昼食を済ませ、バスに乗り込み、いざ、緑の広場へと向かいました。そこで待っているのが「林業体験」。あいにくの雨で、実際は森の中へ入り、伐採作業を体験することになっていましたが、急遽、事務所の倉庫で「丸太切り」の体験をすることになりました。それぞれのグループに特性のこぎりが手渡され、子どもたちは思い思いに丸太切りに挑戦し始めました。最初は、ひけどもひけども思うように丸太は切れません。切れないので余計に力が入り、さらにかからまわりする子どもたち。時折、指導者の方からアドバイスをもらい、徐々にのこがいうことを聞いてくれるようになりました。いわゆる、こつを覚えたのです。あっという間に時間が過ぎていきました。最後、自分たちが切り取った丸太を手に“はいっ、チーズ”。よくできました…。

さあ、いよいよ2日目の最後のメニュー「神楽鑑賞」。「芸北文化ホール」に場所を移し、加計高等学校芸北分校の生徒による「ヤマタノオロチ」を鑑賞しました。

〈ストーリー (一部)〉

高天原を追放されたスサノオは、出雲国の肥河の上流の鳥髪の地（船通山）に天降ります。すると、川上から箸が流れてきたので、人が住んでいるだろうと考え川をさかのぼると、一人の娘を真ん中にして泣いている老夫婦に出会いました。老夫婦は国つ神であるアシナツチとテナツチ。娘は、クシナダヒメという名です。スサノオが老夫婦に泣いている理由を尋ねると、老父は「私たちには八人の娘がいました。でも毎年、山からヤマタノオロチが降りやってくる娘を一人ずつ食べていったのです。今年もヤマタノオロチが来る時期になり、最後に残ったクシナダヒメも食べられてしまいます。それが悲しくて泣いているのでございます」と答えました…。



鑑賞後の子どもたち

子どもたちは、気迫に迫る演技にくぎづけとなっていました。どの子も目を見開いて、事の展開に見入っていました。高校生一人一人が自分に与えられた役をしっかりと演じ切ろうとしている姿はとても美しいものでした。子どもたちも同様の思いを抱いたことでしょう。本物に出会うことの大切さを改めて感じさせられた時間となりました。2日目の良い思い出となりました。「やるからには一生懸命。どうせやるなら一生懸命！」ですね。

3日目「お別れ式」



北広島町のみなさん、お世話になりました... ♡

あっという間の3日間。楽しいことは、あっという間に終わってしまいますね。この3日間のために、1年前から多くの関係者の方々が準備を進めてきました。子どもたちは、この3日間でたくさんの思い出ができたことでしょう。また、多くの価値に気づかされたことでしょう。この「体験」を「経験」に変え、今後の自分の将来に繋げて行ってほしいです。※以上で、今月の特集を終わります。



(省略) みなさんの思い出づくりのためにたくさんの方々が陰で動いてくださった上に体験できた3日間であったことを忘れないでください。自分の目標をかなえた多くの方が語った言葉の中で一番多かったのが次の言葉です。「今の自分があるのは、家族はもちろん、多くの方々が私を支えてくださったからです。心から感謝します。ありがとうございます。」平岡様をはじめ6けんのみなさま、子どもたちを我が子のように迎え入れていただき、大変ありがとうございます。そして、この3日間のために昨年からのいろいろと陰ながらご尽力いただきました竹迫様、岡田様、心より感謝いたします。さて、児童のみなさん、この3日間の思い出を胸に秘め、蒲刈小学校、豊小学校の顔として、今後リーダーシップを発揮し、下級生を引っ張って行ってください。そして、地域の発展のためにもいろいろとチャレンジしていきましょう。最後になりましたが、子どもたちの思い出づくりのために、ここにお集まりの方々に改めて感謝申し上げます、お礼の言葉とさせていただきます。
蒲刈小学校長 山本 智文



平岡さん



佐々木さん



下野さん



中尾さん

子どもたちのためのミニコンサート



9月15日(金)に、公益財団法人蘭島文化振興財団の方々のご厚意により、蒲刈中学校体育館において「子どもたちのためのミニコンサート」が開催されました。BSテレ東「おんがく交差点」に出演しているヴァイオリニストの「大谷康子さん」、友人であるピアニストの「小山さゆりさん」をお招きし、演奏会を行っていただきました。曲目は「クライスラー 愛の喜び」「バッハ G線上のアリア」「サラサーテ ツィゴイネルワイゼン」等を演奏していただきました。今回の企画で、子どもたちに本物に出会わせることの大切さを改めて痛感しています。今後も本校では特色ある行事を企画し実施していきます。

